

26 山口俊郎+佐藤大輔 Toshio Yamaguchi+Daisuke Sato

山口:GoogleEarthをモチーフにした風景画を中心に制作活動をしています。今回はBankARTの巨大空間で普段では制作できない大作を制作します。
 佐藤:今回の滞在制作で、私はサイトスペシフィックなインスタレーション作品及び、新たな志向としてピクチャー形式の新作を制作します。



27 ひでひこ Hidehiko

今回の作品は和紙を使用し、女性をイメージした、きらびやかで自由に泳ぐ「魚」をモチーフに制作しています
 □1981年岡山県生まれ。2007年愛知県立芸術大学美術研究科彫刻専攻大学院修了。2010年伊勢現代美術館(個展)、2011年ギャラリー新九郎(個展)。



28 守野航 Ko Morino

ここで制作及び展示する物が自宅で作する物、一般的なギャラリーで展示する物と同じであってはならない。この二点がここで活動するうえで重要な点であると考えておりますので、普段と違う方法で大きなサイズのフォトコラージュを制作致します。
 □1976年生まれ、静岡県出身、東京都在住。20代前半にたまたま入社した集合写真の会社にて写真と出会う。2001年バンタンカレッジ渋谷校にて内藤雅光氏に師事。以後モノクロ写真を中心に日本を捉えるをテーマとして作品を制作。その後、作品数が増え展示を意識する。2011年よりグループ展、個展に力を注ぐ。



29 佐藤未来+葉栗 翠 Miku Sato+Midori Haguri

他の地域から横浜に移動してきた人々にインタビューを重ね、彼らの故郷から横浜に持ってきたものを収集し、インスタレーションを制作。人やモノが行き来する港という場所、また港の入り口を示す灯台の光のイメージを使い、横浜という場所を再考する。
 □佐藤:ソクスアートプロジェクト(AIR/韓国/2011)、中之条ビエンナーレ(2009)、取手アートプロジェクト(AIR/2008)。
 □葉栗:Happy Smile(カンボジア/2013)、2010年中国南京師範大学留学。佐藤と葉栗は、武蔵野美術大学で出会い、インドネシア、中国、韓国、ネパールなどのアジア諸国と一緒に旅行。今回、はじめて共同でプロジェクトを行う。



30 中西晴世 Haruyo Nakanishi

今回初めての参加となりました。BankART Studioの建物には、独特の雰囲気があり、建物の色々なところにその歴史の名残が残されているのを発見します。その痕跡をたどりながら、黎明期の横浜に思いはめぐります。この場所から外国から持ち込まれ、日本中に広がり発展をした様々なもの、ことを考えながら制作してみました。
 □北海道生まれ。短大卒業後OLまで札幌で過ごし渡米。1993年Montserrat College of Art,MA(アメリカ)卒業。1997年〜首都圏に拠点を移す。現在相模原在住。主な展覧 会Paper dialogue(Kingston Gallery/Boston/2013)、マヤ-縄文のルーツ(メキシコ大使館/東京/2012)、Centre to Periphery(JCC/シンガポール/2010)、Asia Print Adventure(道立近代美術館/札幌/1998)、Cracow 国際版画トリエンナーレ(ポーランド/1997)。



31 二十二会 Nijiyuni-kai

視覚をテーマにしたパフォーマンス作品をつくる。俳優の身体を動かす要因として、①俳優の視覚②観客の視覚を用いる。我々の人格が交換不可能であると同様、我々の視覚も交換不可能である。しかし、他者の視覚の範囲や質を想像することで、交換可能なものが存在するかもしれない。
 □2013年、演出家、渡辺美帆子と俳優/美術家、遠藤麻衣により構成。渡辺は日本大学芸術学部演劇学科卒、遠藤は東京藝術大学大学院美術研究科壁画研究室卒。過去作品に演劇作品「点にまつわるあらゆる線」(2012)、「次、誰か、よろしく」(2012)、映像作品「彼女のことはなして、彼女のことばで」(2013)等。



3C Gallery

32 兼都+Sari Doi Kento+Sari Doi

兼都力仕事を一種のエクササイズプログラムとして壁立てをしています。精神的、身体的にどちらも鍛える為のパフォーマンスです。Sari Doi:宇宙旅行中の遭難のシーンから着想を得たインスタレーションを制作中。キーワードは子ども、サバイバル、教育。
 □兼都:1991年生まれ。トランスジェンダー当事者。セクシャリティーにまつわる作品を展開中。
 □Sari Doi:幼少のころから欧州で計14年間過ごす。2011年より宇宙創発論というシリーズの作品の制作・発表をしている。ユニットではなく、スタジオをシェアして各々制作・活動している。



33 海老澤佳子 Yoshiko Ebisawa

「みんなとまちづくり」アートワークショップ! ことから大人まで、「みんな×みんな」の参加型作品を制作していきます。大きな地図の上に、自分自身や人物、生き物、建物、乗り物などを、ネット上で自由に作り、その街の好きどころに置いていきます。最初は空っぽの街は、日に日に仲間が増え、にぎやかな街並みになることになるでしょう。ぜひふるってご参加ください。
 7/13(土)14時-18時、7/18(木)18時-21時、7/21(日)14時-18時
 【参加費】300円・親子ペア500円(ネンド代込み)
 ※対象年齢3歳以上(小学生未満は保護者同伴)
 □1974年東京、生まれ。トキワ松学園女子短期大学造形美術科ライブデザインコース卒業(現在:横浜美術大学)。あとと教室主宰(こども造形教室)2003年からスタート!今年で10周年!、2008年Play Art Laboratory活動する。2011年、都築区せせらぎ公園古民家にてグループ展出演。



34 Bico

"Voyaging"心静かに自分の中を旅してみよう! 光も希望も忘れていた感情も...多くの答えは自身の中に存在する。旅の入り口となり体感しながら深く静かな空間へと導いてくれる大型作品と同時に「Voyaging 2013」プロジェクトの一環として実際に人から人へと世界中を「旅」する作品を制作中。
 □横浜生まれ。大学では国際経済学を専攻。自己理解を深めるためのツールとして全くの独学でアートの世界へ。近年では、葉山にスタジオを設け自然との対話を通して、心へと深くアプローチする作品創作に取り組んでいる。2008年・2009年ZAIM(横浜)、2009年OUCHI GALLERY(ニューヨーク)、2011年・2012年GALERIE PARIS(横浜)にて個展。その他、音楽CDジャケットなどにも作品を提供。



35 横山 愛 Ai Yokoyama

日常的に記憶されていく脳内にある画像、写真として映し出される画像、実際に三次元にある実物との三者の差異を埋めることと主題として、透過性のある紙を使って写真に光を通すことで写真に上記三者の共有出来る空間性を作れるかを実験。
 □1989年東京都生まれ、神奈川県在住。2012年神奈川大学法学部卒業。Imaginary Blueという言葉をテーマに人の意識と記憶に近い画像を写真を元に模索しながら制作。主な被写体は風景全般と静物。個展開催(横浜元町・ラウンチパドカフェ/2011)、グループ展YES展参加(ニューヨークブルックリン・OUCHI GALLERY/2013.6)



36 稲垣弘子 Hiroko Inagaki

いつもは平面作品で完結することが多いのですが、今回は会場の床をも使ったインスタレーションのような作品を仕上げられればと思っています。会場が水に囲まれた環境なのでアクリル板にペイントして、床には水面を作り壁面には地上の楽園の絵を描きたいと思っています。
 □1995年武蔵野美術短期大学卒。以後、身近なものを描いた絵画作品を個展を中心に発表してきました。しかし、2001年9.11の同時多発テロ事件以降、表現者としてこうした個人ではどうしようもない悲しい出来事と向き合う表現をしたくて「楽園」をテーマにした制作を始めました。そこで出来た小さな楽園は、東の間でも観る人の心に幸せの種を蒔いてくれると信じて。



37 大沢貴紀 Takaniri Osawa

私は、美術に打ち込むとき、それは常に何かを確かめたい、と強く願うことから始まります。自分自身にとって理解を超えたもの、あるいは実感に訴えるにはまだほど遠い弱々しい予感。それらを何からの、大沢貴紀と対峙する等身大サイズを備えた物体として、素材や技法を交えて築き上げる時、私はその何者かの臭いや手触り、物音を一つ一つ確かめてゆきましょう。最終的に作品が私の手から物理的に離れ、その視線を私が浴びるとき、再度その事象を確かめる方法を、強化してゆきます。私が作品制作をする時、それはそのようなやり取りによって垣間見える世界のしほに耳を傾けることなのです。
 □1989年横浜生まれ、2011トキョーワンダーシード、個展「わたしがテレビの向こう側で起きたことについて知っている、2、3の事柄」(代官山UPSTAIRS GALLERY/2012)。



□お問い合わせ BankART 1929
 TEL:045-663-2812 FAX:045-663-2813
 studio@bankart1929.com

□アクセス
 〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9
 横浜みなとみらい線「馬車道駅」
 6出口「赤れんが倉庫口」徒歩5分



BankART Artist in Residence

OPEN STUDIO 2013

7月12日[金]-21日[日] 11:30-19:00

会場= BankART Studio NYK 入場無料
 オープニング:7月12日[金] 19:00-料金:500円

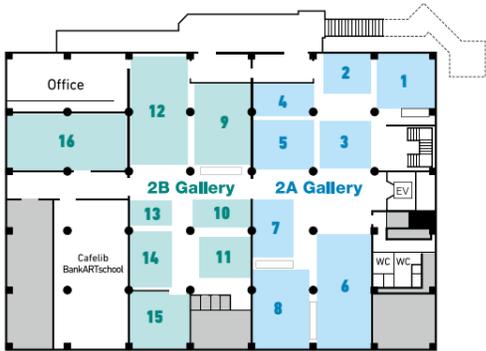
BankART1929では今年もレジデンスプログラムを企画し、現在公募で選ばれた36組のアーティストが制作を行なっています。5月20日に入居してから2ヶ月間を経たばかりですが、その成果の一部をご覧頂きたく思います。オープンスタジオは、普段の制作風景を見ていただくというのが主で、展示としての完成度を指すものではありません。アーティスト達の生き生きとした制作現場をご覧になり、交流していただければと思います。皆様のご来場をお待ちしております。

アーティストトーク@BankART Pub

時間= 18:30- 料金は無料ですが、バブでのドリンクのオーダーをお願いします。
 6/15(土) 菊池 歩 / 丸山勇樹 / 森本 孝
 6/22(土) 栗原亜也子 / 山口俊郎+佐藤大輔 / 海老澤佳子 / 横倉裕司 / 鯨(土居大記)
 6/29(土) 三上 亮 / 関口佳明 / 大沢貴紀 / Bico
 7/13(土) 寺田 忍 / 高橋りく / 関本幸治 / 横山 愛 / 稲垣弘子
 7/14(日) 坂間真実 / 佐々木邦彦 / 二十二会 / 守野 航 / 宮間夕子
 7/15(月祝) 松本秋則 / 谷山恭子 / 南條敏之 / 増田セバスチャン+m.a.m.a. / バク・ミスン
 7/20(土) 進藤詩子 / フランシス真悟 / 藤井 龍 / 佐藤未来+葉栗 翠 / 飯島剛哉
 7/21(日) 吉田花子 / 兼都+Sari Doi / ひでひこ / 中西晴世

BankART Artist in Residence OPEN STUDIO 2013

2F



2A Gallery

1 栗原亜也子 Ayako Kurihara

5回目の参加となるBankARTのAIRでは、同時期に開催する韓国・コヤン市での展覧会に関連した公開制作を行います。「Mind Games」と題したペインティング・パフォーマンスをSNSとストリーミングを利用して横浜〜韓国間をつなぎ、遠隔ペインティングをリアルタイムで実践します。

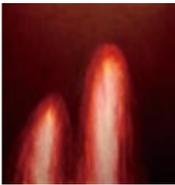
□1999年愛知芸術大学油画科卒業、横浜在住。滞在制作「Mind Games」BankART Studio NYK (2006)、個展「Untitled/Ayako Kurihara」(Galry MAKI/東京/2007)、個展「H氏との対話」(DEMADO Contemporary Art Project/京都/2011)、グループ展「Building a castle of sand (or breaking it)」(Next door Gallery/ソウル/2012)、展覧会「Heritage600=Tomorrow600」(Aram Museum/韓国コヤン市/2013)。



2 関口佳明 Yoshiaki Sekiguchi

現在の制作は昨年来の絵画表現を大型作品に拡大すること、同時にさらなる展開の可能性を探ることにある。絵具を重ね、水で落し、それを反復するという“行為の積層”による表現はいつだってシンプルだが、制作過程も作品の重要な要素とする絵画作品である。

□1961年浦和市生まれ。創形美術学校で美術、慶應義塾大学で美学を学ぶ。ドローイング、ペインティングを基本に個展、グループ展で発表。コンセプトワークや同企画展も行う。コミュニティアートワークとしてワークショップ等を行うほか2001年より10年間掛川市大須賀地区の町興し展の支援を行う。環境芸術学会会員。



3 飯島剛哉 Gohya Iijima

作品は作品を見ただけではそれが何なのかさっぱり分かりませんが、作者と会話をすると少し分かります。作家が作品を作るには理由があり、それは常に、全ての作品において等しく扱われるべきだと思っています。

□1976年神奈川県生まれ。2004年Bゼミ修了。個展に、「Hangar」(Gallery LE DECO/東京/2010)。グループ展に、第37回Bゼミ展「火星の生活」(BankART1929馬車道/神奈川/2004)、「版画 デイヴィッド スミスの芸術を学ぶ者への問い」(bianclass/神奈川/2012)。



4 菊池歩 Ayumi Kikuchi

作品名「支度〜終わりの始まり」
此処BankART1929は、港みえる開かれしまた開かれゆく場所。その窓近くにて、汽笛を聴きながら、旅の「支度」、「こころの花」づくりを再開しています。

□2002年「TONBUR」にてデビュー。2003年「Universe」の受賞を経て、2004年第3回大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ参加決定、2006年「こころの花〜あの頃へ」開花、代表作の誕生となる。2009年「こころの花〜あの頃へもう一度」にて再びの開花。2012年「MY GREEN GAUDI」発表、今日に至る。鎌倉在住。



5 吉田花子 Hanako Yoshida

私は、色が人の気持ちを動かす事に興味があります。また、自分の心の状態によって、溢れ出てくる色が異なる事にも驚いています。見る人を幸せな気持ちにしたいです。変化する感情と色の繋がりを、ずっと追いかけて描いています。

1988年8月16日東京生まれ。1995年成城学園初等学校入学。2012年成城大学文学部芸術学卒業。主な活動として成城大学シラバスデザイン公募2010「優勝」(2009)、2010年神楽坂CANALCAFE boutiqueライブイベント、個展に「Secret Garden」(国分寺/2011)、「Secret Garden2th」(神楽坂/2011)、「Secret Garden3th」(国分寺/2012)、「SECRET GARDEN 4th」(青山/2012)、「Secret Garden 5th」(外苑前/2012)、「Secret Garden 6th -Long LOVE Letter-」(外苑前/2013)、グループ展に「とうとう展」(押上/2011-12)。



6 高橋りく Liku Takahashi

「マリス国旗プロジェクト」。通常のアクリル画の国旗を、全盲の人も含め、すべての人類にわかる「マリスの国旗」に、一枚ずつ変えていきます。絵画鑑賞の対象を人類すべてに広げる、現代美術における社会的実験、第6回目。

□1993年東京造形大学彫刻科卒業。2008年まで、大型立体作品の個展を中心に活動。2009年、砂絵の一種「マリス」を研究発明。現代美術における絵画鑑賞の対象をすべての人類に広げる試みを成功させる。2010年、マリスアートプロジェクト発足。国内外で個展。2012年、オリンピック「マリス国旗プロジェクト」を始動。



7 森本孝 Takashi Morimoto

ちょっと気が転んで、64歳から始めた制作の世界、3年目の駆け出しに定まった道はない。ただ、この世の不思議と雑多さに、惑わされ、酔い、遊びたい。まずは、カフカと遊ぶ・格闘中。

□1946年岡山県生まれ。数社の勤務の後、2006年定年退職、2010年まで美術関係の経歴、活動は無し。2011年2月横浜 BankART school 牛島達治氏の講座に参加、制作を志す。2011年12月アート千代田3331ボコラートvol.2入選。審査員賞の「椿昇賞」を受賞。2012年9月アート千代田3331「ボコラート受賞者展」に受賞作+新作4点、計5点を展示。



8 増田セバスチャン + m.a.m.a. Sebastian Masuda + m.a.m.a.

増田セバスチャンが、制作チーム「m.a.m.a.」(10~20代の女の子)と共に、大型絵画「colorful rebellion (カラフルな反抗)」を制作。女の子の「心象風景」、原宿の「風景画」でもあるカラフルな要素を貼込んだ半立体作品。

□演劇・現代美術の世界で活動した後、1995年に表現の一環としてショップ「6%DOIKODOKI」を原宿にオープン。海外へ原宿、kawaii文化を広める活動と並行し、きゅりーばびゅばみゅやTOWA TEIのミュージックビデオの美術、宮本亜門演出舞台の美術監督を担当するなど、幅広いジャンルで原宿・kawaii文化をコンテクストとした創作活動を行っている。

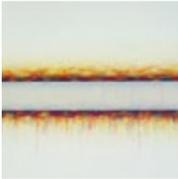


2B Gallery

9 フランシス真悟 Shingo Francis

水辺に位置するBankARTの環境を生かし、水と地域との関係性を、色や光を使って絵画として表現したい。前半は港の環境や陸と海の境界線を探るための写真撮影、デッサンなどの取材。後半はそれらの情報を作品に取り入れながら制作作業を進める。過去に横浜で制作した作品、「Into Space」と「Blue's Silence」を基に新しい実験的なペインティングを試みる。現在、スタジオ周辺で撮影した写真をもとに、4m×2mや小さいキャンバスに絵を描いている。

□1969年カリフォルニア州サンタモニカ生まれ、ニューヨーク在住。ピッツァー大学で美術学士を取得。2003年、SICF南條史生賞(森美術館副館長賞)の受賞を皮切りに日本、アメリカ、ドイツ、韓国で展覧会を行う。主なグループ展はDIC川村記念美術館の「抽象と形態:何処までも隠れないもの」(2012)など。昨年、新港区のレジデンスで制作した作品はJPモルガンコレクションに加わった。2013年夏にはギャラリーバー(横浜)で新作展予定。



10 宮岡夕子 Yuko Miyama

アジアの形を探っています。目に見えないものを形にするプロセスは貴い行為であり、根源的で普遍性を持っています。多様化が進む世の中で、今における信仰心とは何か。内に秘められた生命エネルギーがむきだされた時に解き放たれる強力な力。そういったものとの対話しながら作品に向き合っています。

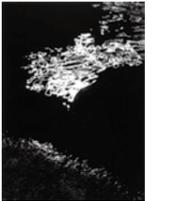
□1987年東京生まれ。2008年横浜美術短期大学絵画コース入学。2010年横浜美術短期大学2009年度卒業制作準短大賞受賞。2010年武蔵野美術大学油絵科3年次編入学。2011年銀座ギャラリーフォレスト 個展、武蔵野美術大学卒業制作優秀賞受賞(2012)、カナダ Community Art CouncilにてART JAM 2012 Images of Japan (2012)、トーキョーワンダーウォール2013入選(2013)。



11 南條敏之 Toshiyuki Nanjo

撮影は外で進行するため、スタジオでは壁面に下調べの写真とそこから連想できる言葉を貼り、写真の間の要素の関連に青い糸を張り横浜の河川で得られるイメージの関連を見るようにし、その関連を撮影を進めていくための手がかりになっています。

□「LET THERE BE LIGHT」(GALLERY HANGIL/韓国/2008)、「余韻 / 響き」(Hyun Gallery/韓国/2009)、「ながめる まなざし」(UP FIELD GALLERY/東京/2010)、「New Works」(Space O'NewWall/韓国/2012)。



12 コレヨコagain+続・朝鮮通信使2013 (特別参加)

ひとつは現在、毎週木曜日の夜開催中のBankARTスクールでの「コレヨコagain」ゼミの資料整理と分科会のための場所。もうひとつは3年前から推進してきている「続・朝鮮通信使」の資料及びプランニングの場所。ご自由にご覧あれ!



13 藤井龍 Ryo Fujii

過去と未来の自分の作品・考えすべてを、無理やり結びつけて考えるのではなく、それらを総体としてみる。つまり、一貫したものとしてではなく、並列され、しかし共にあるものとして捉え、その上で制作をしています。

□1987年岡山県生まれ。2013年東京藝術大学美術研究科大学院彫刻専攻修士課程修了、2011年 Royal Academy of Arts (ロンドン) 交換留学、現在東京藝術大学美術研究科先端芸術表現専攻在籍。2013年 東京藝術大学卒業修了作品展、「A Room of Wonder」curated by Gustavo Ciriaco (Tokyo Wonder Site aoyama/2012)、上勝アースワーク2010 (徳島県上勝町/アートプロジェクト/2010)。



14 佐々木邦彦 Kunihiko Sasaki

横浜の坂のある住宅地を歩きまわって写真を撮っています。いろいろな物がギュッとつまって乱立している光景に面白さを感じています。新しい物がどんどん出てきますが、積み重ねてきたものが多いように思っていて、写真で上手くあらわせればと思います。

□1977年生まれ。30歳から写真はじめて、渡部さどるさんのワークショップ 2B、BankART schoolにて鈴木理策さん、飯沢耕太郎さんの授業を受講してきました。展示やレビューを通して日々勉強中。2010年グループ展、2011年グループ展。2012、13年ヨコハマフォトフェスティバルのレビューに参加。



15 関本幸治 Koji Sekimoto

写真作品を作るために、人物を塑像し、背景を作り、撮影します。その撮影をするためのセットなど、制作するプロセスをお見せます。「人の心の微震」をテーマとし、何もないところから被写体作ることでも生み出される世界を過去の写真作品群と共に展示します。

□1969年神戸生まれ。1996年 愛知県立芸術大学美術科油絵専攻修了後 渡独(ケルン〜03年) 現在横浜にスタジオを構え国内外で活動中。主な展覧会としてAsia Serendipity (フェルナンゴメス劇場/スペイン/2012)、Another I (C.A.P./神戸/2012)、Choosing Clothes for my Journey (黄金町/バザール/横浜/2011)、The Backwards Clock in the Mirror (アートテック美術館/ケルン/2008)、写真新世紀(東京写真美術館/2008-10)など。



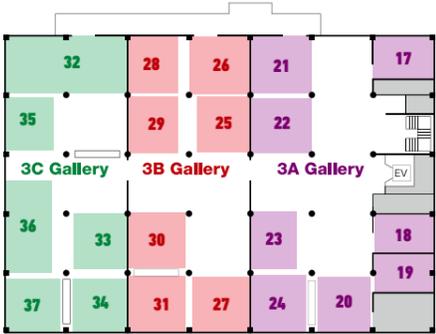
16 松本秋則 Akinori Matsumoto

影絵のサウンドインスタレーションは、スクリーンの映像と音が絶えず変化し続けるので不思議に思い、スクリーンの裏側はどうなっているのか時々尋ねられることがあります。今回の展示ではスクリーンの裏側に入れる仕掛けをつくりました。巨大なスクリーンで音と映像の世界を楽しんでください。

□1978年より創作活動を始め、日本国際美術展、ヘンリームーア大賞展など数多くに出品する。1992年五島記念文化財団の助成で、1年半アジア7ヶ国で少数民族の芸能を研究。第9回バンコクラヂェシアジア・アートビエンナーレでグランプリを受賞。現在は美術館、ギャラリー、公園などさまざまな場所でサウンドインスタレーションを展開中。現在、新・港区にも居を構えている。



3F



3A Gallery

17 進藤詩子 Utako Shindo

反射、投影などの「光景」の要因となる光や空気、水などの「媒体」を、自身の住居やスタジオ内外の任意の場所で観察・記録している。関連文献のリサーチや翻訳、他者との対話も平行して行っている。これらのリサーチをもとに影や反射を作る装置の制作を試みる。

□1980年東京生まれ。2003年よりメルボルンを中心に美術作品の制作、研究、発表を行う。近年は日本を拠点とし、企画やスペース運営にも携わる。特定の場の物理的條件に由来する影、反射、痕跡などを視覚的に捉える作品では、虚像の身体感覚への影響を探る。現在、メルボルン大学芸術学部センターフォー・メディア博士課程に在籍中。



18 坂間真実 Mami Sakama

解剖と展開。形がある。その形に光をあてる。影になる。形がある。その形をデッサンする。実物と模倣の二つの形ができる。形がある。その形を切り開く。展開図ができる。切り開かれた展開図。紙で作る、布で作る、映像で作る、身体で作る、空間で作る。

□2007年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。大橋可也&ダンス「帝国、エアリアル」出演(新国劇場/2008)、「de noise」出演(六本木スーパーデラックス/2009)、「ARTIST IN STUDIO」(BankARTstudioNYK/2010-13)、第15回岡本太郎現代芸術賞特別賞(2012)、第87回装苑賞ファイナリスト(2013)。



19 三上亮 Ryo Mikami

昔の映画を見ていて、その映画の中ではまだみなとみらいは海のままだった。そこで展開されているフィクションの世界の中にかつて存在した、しかし今は残っていない風景が存在しているというのがとても奇妙に感じた。そこから自分にとっての「物語」「風景」というものを作品制作を通じて考えていく。

□1983年神奈川県川崎市生まれ。1986-89年アルゼンチン、ブエノスアイレスに過ごす。1995-98年マレーシア、クアラルンプールに過ごす。2008年 東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科卒業。2011年東京芸術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。



20 バク・ミ・スン Mi Soon Park

描いているのは大体人間や動物のポートレート。今回は1つの画面に色んなポートレートの絵画を制作。様々な対象物は分解と合体を繰り返し新たな具象物として構成する。ホトの顔を見せたくない、その存在が曖昧で少しは恐ろしいポートレートが出て来ると思う。

□1980年韓国生まれ。2005年渡日。2008年展示活動を始め、2012年からイタリア、フランス、ドイツ、ニューヨークなどで企画展やアートフェア中心に活動をしてきた。現在ニューヨーク・チェルシー所在のCoohaus Artの専属アーティストである。今年はイタリア洋服会社Velvet goldmineのアイテムと作品をコラボし、国際紳士服博覧会ピッチェ・ヴィオモ 2013 S/Sにコレクションを出している。



21 丸山勇樹 Yuuki Maruyama

影について思考し制作しています。

□1986年東京生まれ。2013年武蔵野美術大学大学院在学中。主な展覧会に第5回写真「1-WALL」展(銀座/Gardian Garden)、第4回中之条ビエンナーレ(伊勢スタジオ)、個展「光野」(Nikon Salon/新宿・大阪/2012)、個展「山の場所」(Nikon Salon/新宿・大阪/2013)、主な受賞に2013年、TOKYO FRONT LINE PHOTO AWARD 審査員賞(森美術館館長・南條史生選)、第7回写真「1-WALL」展 審査員奨励賞(写真家/土田ヒロミ選)。



22 寺田忍 Shinobu Terada

思考を重要視し、文章を綴りながら作り上げていきます。不確かとも言える自分自身という存在と、周りを取り囲む世界。その関係性について考えを深めていき、思考の変化によって様相を変えるインスタレーション作品を制作します。包帯という素材を解体し、その繊維が絡み合いつつ、且つ又離れてゆく。その、日々の変わり方を見ていただければ、と思います。

□1998年桑沢デザイン研究所卒業。BankART AIR Program (2010-11)、江古田ユニバース2011、BIWAKOビエンナーレ2012。



23 鯨(土居大記) Hokke (Hiroki Doi)

今回は「住む」ということをキーワードに体感できる立体作品を制作している。でもこの作品は「住む」を語ったりはしない。受ける感覚は人それぞれだろう。わたしにとっての住むということがあなたにとつての「その感覚」であるのだとおもう。

□1991年香川県生まれ。2013年ICSカレッジオブアーツ卒業。空間にまつわるモノと人との関わりから、感覚を生み出すモノや現象を起こしたいと考えている。そこに自分と他人との社会を感じたい。(知り合いたい)



24 谷山恭子 Taniyama Kyoco

2011年震災以降「今、私(達)はどこにいるのか?」という疑問を発端に始めた緯度と経度を使ったlat/long projectから発展し、ここではubiety -所在- をテーマとした、写真を使った立体作品を制作しています。OPEN STUDIOではそれに加え、過去の作品と10月の個展の為に模型制作を公開予定です。

□1972年愛知県出身。1994年武蔵野美術大学工学工業デザイン学科卒業。1996年武蔵野美術大学造形学部大学院終了、2012-13年「Asian Cultural Council Fellowship」半年間NY滞 在、「LMCC Artist in residence program」に参加。主な展示に、瀬戸内トリエンナーレ2013夏、ART RINK 2012、大地の芸術祭越後妻有トリエンナーレ2009、瀬戸内国際芸術祭2010、六甲ミーツアート2010 ARCHITYPES パンクパー、シドニー、東京巡回展その他多数。



3B Gallery

25 横倉裕司 Yuji Yokokura

普遍的で何気ない風景からある種の関係性を見いだします。それは見いだすというよりは自分から見える風景、すなわち外部が様々なことを私に暗示をしてきていることに近いのかもしれませんが。私自身もまたそこに身を置き、作り、見つめて、また作ります。

□1981年生まれ。2007年に多摩美術大学大学院美術研究科修了。主な展示に「サマーフェスティバル/アート学生展覧会inNY」(イセラルチュールファンデーション/2005)、「ART AWARD TOKYO」(行幸地下ギャラリー/2007)、「せいめいのれきし」(アキバタマ21ArtsChiyoda3331/2011)などに参加。

